

市民の皆さんは大館が舞台になつてゐる漫画をご存じでしょうか。現在「週刊ヤングサンデー」に連載中の「ワールドイズマイン」という漫画です。大町商店街や東大館駅前が描かれていて大変ビックリします。あらずじを簡単に説明すると、神の啓示を受けた



リポーター
豊口 一 さん
(旭ヶ丘)

『ワールドイズマイン』

作者からの手紙

と思われる主人公トシモンが日本中で大量殺害を繰り返す、怪物ヒグマドンが大館を破壊するというストーリーです。どうして大館が舞台になったのか知りたくて作者の新井英樹氏に手紙を出したところ、返事が来たので紹介します。

大館の皆さん、

勝手にぶつ壊しちゃいました。

ごめんなさい。

とりあえずご質問の件から

(1)「なぜ大館が舞台か？」

ご期待に添えなかつたら申し訳ないのですが、漫画上のロケ地の選択は、はじめに地図ありきでし

て、大方のあらずじを決めた時点（ヒグマドンが青森県竜飛から南下、トシモンが青森市から十和田湖を抜けて南下）で、理詰めから地図を見たところ「大館市」を見つけた次第です。もともと田舎（失礼？）を知らない人間なもので、故郷と呼ぶにふさわしい街、方言のある故郷、東方に対するあこがれ（コンプレックス）などなどありまして。

(2)「大館のどういう点が劇画のイメージに合致したのか？」

写真取材のため、編集担当者と一緒に都合同大館を訪ねさせてもらいました（最初の構想ではヒグマドンが大館で暴れまくるシーンはなかつた。どちらかといえばトシモン中心で爆弾テロ南下だけのつもりでいたものでして）。単行本一巻をご覧になれば分かると思いますが、マリアの実家（JR東大館駅近くのあべの旅館）からマリアがトシモンをJR大館駅へ送って行くシーン（大館銀映・中央劇場前）で三人が歩いていく方向はまったく逆です（恥）。何度か訪れてるうちに地図と格闘した結果、ようやく土地、建物の位置関係が頭に入りはじめました。

あくまでもボクの場合ですが、作画上写真を撮りにその土地土地へ出て行き、歩きながら写真を撮りながら、目に映るのを頭の中で転がしはじめて「ここではだれだれがこんなことになる」といったドラマが続いて心地良い状態になります。ヒグマドンを暴れさせようと思いついたとき、記憶と写真の中の大館が転がり出しました。「なぜ大館に怪物が？」と読者はそう考えるかも知れませんが、それこそボクのおもうところなんだよなと：

ボクは神奈川出身で実家は決して都会っぽさのかけらもない住宅地みたいなところにあります。「故郷」って言葉がどうしてもあてはまりません。もとより「怪物」に興味のないボクが怪物描いたらどうなるんだろうって思い描いてますから、通常の怪物映画のような前例を踏襲したものにはしたくありませんでした。…で大館。勝手な思い込みで申し訳ないのですが「故郷」って言葉がハマった。ミーハーだけよかった。ちゃんと生きてるひとたちがいて生活して「郷愁」といわれるような雰囲気がある…そこに怪物、怪獣と郷愁、そんなイメージがボンと浮かんでピタリとききました。



資料提供・新井英樹氏